

TECHNICAL DATA

仕上げの種類	カチオンポリマーセメント系 床用防水下地調整材
製品名	アンダーテックス T

第7版 作成日： 2016年 11月 10日



菊水化学工業株式会社

標準施工仕様書

- 種類 : カチオンポリマーセメント系床用防水下地調整材
- 製品名 : アンダーテックスT
- 下地 : コンクリート・セメントモルタル・アスファルト防水・シート防水・ウレタン防水・等
- 適応範囲 : 新築コンクリート床下地調整、塗替時の仲介接着に適応
- 工程 :

新規下地

工程	材料・調合	施工用具・条件	塗回数	間隔時間 (23℃)	所要量
素地調整	ゴミ、未硬化セメント粉末、砂塵、油脂分などの付着物をワイヤーブラシ、かわすき、サンドペーパー、ウエスなどで除去し、乾燥した清浄な面とする。				
下地調整	アンダーテックスT 主材 : 25kg 混和液 : 2kg 清水 : 2~3 L	コテ	1	24以上	約 16kg/m ² 約 1.7 m ² /セツト (10 mm厚)

標準塗厚 : 2~10mm

単位容積質量 : 約 1.8kg/L (練り上り容量 : 約 17L)

練り混ぜ後の可使用時間 : 1時間以内 (20℃)

溶剤製品を次工程に施工する場合、72時間 (23℃) 以上の乾燥養生時間を設けて下さい。

- 工法 :

(1) 素地調整

- ・コンクリート面の突起物、レイトンス及び白華は、グラインダーがけ又は皮スキ等で除去して下さい
- ・汚れ及び付着物は、ワイヤーブラシ・研磨紙・布等で除去し、必要に応じて水洗いを行って下さい。
- ・旧塗膜の浮き・剥がれ・チョーキング層等は除去してから施工して下さい。
- ・下地面に残留する金属 (番線・くぎ等) は除去して下さい。
- ・脆弱な下地及び吸い込みの大きい下地 (モルタル下地) の場合は、「ネオモル下塗材」を塗布して下さい。

(2) 材料の取扱い（練り合わせ）

- ・製品は空練りを行った後、練り混ぜを行って下さい。
- ・材料は、清水 2 L に混和液 2 kg を加え、主材 25 kg をまま粉及び泡の混入がないように徐々に加えて均一に混ぜ合わせます。必要に応じて 0 ～ 1 L の清水で軟度調整して下さい

(3) 施工

- ・主材塗りは、コテなどを用い所定の厚みに塗り広げて下さい。

● 荷 姿

下地調整材： アンダーテックス T

主 材 NET： 25 kg/袋

混和液 NET： 2kg/ポリ

成分表

●下地調整材： アンダーテックス T

【主 材】

内 容	重量 (%)
無機質結合材	33.2
添加剤	0.4
骨材	66.4
計	100.0

【混和液】

内 容	重量 (%)
アクリル樹脂エマルジョン	100.0
計	100.0

性能試験成績書

種類	カチオンポリマーセメント系床用防水下地調整材		
商品名	アンダーテックス T		
供試材料	アンダーテックス T (粉体 2.5kg、混和液 2kgセット)		
試験方法	JIS A 6916-2014に準拠 (下地調整塗材 CM-2)		
項目	規定	結果	
軟度変化	-20 ~ 20 %	合格	
耐ひび割れ性	ひび割れない。	合格	
耐衝撃性	ひび割れ及び剥がれない。	合格	
付着強さ	標準養生	1.0 N/mm ² 以上	1.7
	低温養生	0.7 N/mm ² 以上	1.6
吸水量	2g以下	0.4	
耐久性	割れ、膨れ及び剥がれがなく、付着強さは1.0 N/mm ² 以上とする。ただし、仕上塗材で破断した場合は0.7 N/mm ² 以上とする。	合格 1.3	
曲げ強さ	5.0 N/mm ² 以上	9.3	
圧縮強さ	10.0 N/mm ² 以上	20.2	
透水量	0.5 mL/h 以下	0.1	
—以下余白—			

* 上記数値は代表値であり、製品の数値等を保証するものではありません。あらかじめご了承下さい。

施工にあたっての要点

●施工

- 【1】 色・模様決定に当たっては、原則として塗見本を作製して、工事監理者の承認を受けて下さい。
- 【2】 塗見本は、必要に応じて工程ごとに手順が分かるものとします。
- 【3】 使用量の確認は塗見本との比較または単位体積当たりの使用量で確認して下さい。
- 【4】 所定の使用量に達しない場合や超えてしまう場合には、種々の欠陥を生じる場合があります。所定の使用量を守って施工して下さい。

●材料

- 【1】 製品は直射日光下及び0℃以下での保管は避けて下さい。
- 【2】 製品は、湿気に注意し、水係を避け、パレットの上に置き、なるべく乾燥した屋内に保管して下さい。
- 【3】 施工時は換気を十分行なって下さい。

●工法

- 【1】 各種標準施工仕様に記載の所要量及び間隔時間を守って施工して下さい。
- 【2】 製品はミキサーで混ぜ合わせて下さい。
- 【3】 製品は空練りを行った後、練り混ぜを行って下さい。
- 【4】 練り水及び希釈水は必ず清水を使用して下さい。
- 【5】 練り混ぜ後、可使時間以内に使い切ってください。また、可使時間は温度、希釈によって変わりますので、練り混ぜ後はなるべく早く使い切ってください。
- 【6】 可使時間の過ぎた材料を、練り直して再度使用しないで下さい。
- 【7】 練り足し、水を加えての練り戻しはしないで下さい。
- 【8】 表面に白華が発生した場合は水洗い等により除去してから次工程の作業を行って下さい。

●施工管理

- 【1】 施工場所の気温が5℃以下、湿度が85%以上又は結露の発生が考えられる場合は、塗膜の乾燥過程で種々の欠陥を生じることがありますので、施工を避けて下さい。
- 【2】 降雨、結露、降雪のおそれ、または強風のおそれがある場合は施工を避けて下さい。
- 【3】 施工しない箇所はあらかじめ養生をし、その他の材料が付着しないようにして下さい。

さい。

- 【4】 養生を剥がす際は、十分に注意して行って下さい。
- 【5】 直射日光下で施工する場合は、適切な養生をし、下地表面の急激な温度を上昇を防止して下さい。
- 【6】 施工箇所が高温である場合は、製品をできるだけ気温の低い所に保管し、あらかじめ冷却した水で練り混ぜて下さい。
- 【7】 既調合タイプの製品に現場で、セメント、砂等の指定材料以外を使用しないで下さい。
- 【8】 小分けでご使用の場合は計量器で正確に計量を行なって下さい。
- 【9】 仮防水性は完全な防水材では有りません。降雨・降雪が予想されたり、下地のひび割れ等の劣化が激しい場合には、下地調整後シート養生等で漏水対策を講じて下さい。

●その他の注意事項

- 【1】 施工器具等の洗浄水が、河川に流出したり、土壌にしみ込まないようにして下さい。
- 【2】 磁器タイル洗浄用の酸が表面に付着すると変色したり、溶解することがあります。磁器タイルの洗浄用の酸が塗装面に付着する可能性がある場合は、必ず塗装面のマスキングを行って下さい。
- 【3】 シーリング材の上に施工する場合、シーリング材の種類等により、汚染や密着不良を起こすことがあります。詳しくは弊社営業所までお問い合わせ下さい。
- 【4】 施工器具・条件は代表的なものです。
施工器具、施工方法により若干の色相差を生じることがあります。
- 【5】 間隔時間・所要量の値は標準的なものです。施工方法・器具、被塗物の形状、素地の状態、施工条件により各々多少の幅を生じることがあります。
- 【6】 防藻・防カビ効果は藻やカビの繁殖を抑制するものです。藻やカビが発生しないことを保証するものではありません。また、その効果は永久に続くものではありません。すでに発生している藻やカビは除去してから施工してください。
- 【7】 改修・改装工事の場合は、弊社最寄りの営業所にご相談ください。
- 【8】 製品の取り扱いについての一般的な注意事項の詳細は SDS（安全データシート、旧MSDS）を参照して下さい。

*本仕様書の内容は予告なしに変更することがあります。施工に当たっては常に最新版の仕様書を参照するようにして下さい。